

株式会社アドバンテスト
2009年度 第1四半期 決算報告

2009年7月29日

常務執行役員 中村 弘志

業績の概要						ADVANTEST.		
(単位: 億円)								
2008年度 実績						2009年度 実績		
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	前期比 (%)	前年同期比 (%)
受注高	182	181	89	49	501	116	+136.1	-35.9
売上高	265	260	146	96	767	76	-20.2	-71.2
売上原価	128	128	127	186	569	33	-81.8	-73.6
売上総利益	137	132	19	-90	198	43	-	-
営業利益	-18	-21	-116	-340	-495	-45	-	-
営業外収支	15	-25	-15	-8	-33	8	-	-
税引前純利益	-3	-46	-131	-348	-528	-37	-	-
当期純利益	-2	-27	-78	-642	-749	-38	-	-
受注残	241	162	104	58		98	+69.5	-59.2

2

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2009/7/29

○ 2009年度第1四半期の業績概要

- ・ 受注高 前期比約2.4倍の116億円、
- ・ 売上高 前期比約2割減少の76億円、
- ・ この結果、受注残は、
前期比約7割増加し、98億円となった。

○ 売上総利益は43億円、

売上総利益率は、55.9%となった。

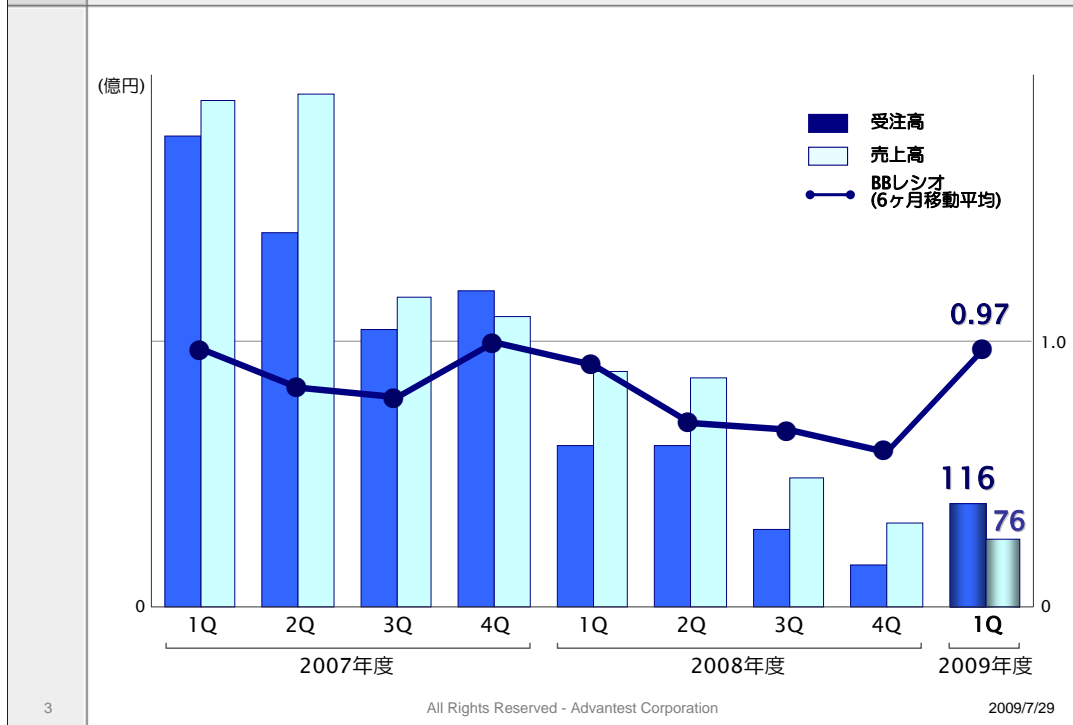
昨年度から構造改革や、

継続的な経費削減活動を行ってきたが、
依然として売上高が低調であったため、

- ・ 営業利益は、 45億円の損失、
- ・ 税引前純利益は、 37億円の損失、
- ・ 当期純利益は、 38億円の損失となった。

受注高と売上高の推移

ADVANTEST.



○ 過去2年間の受注高と売上高のトレンド

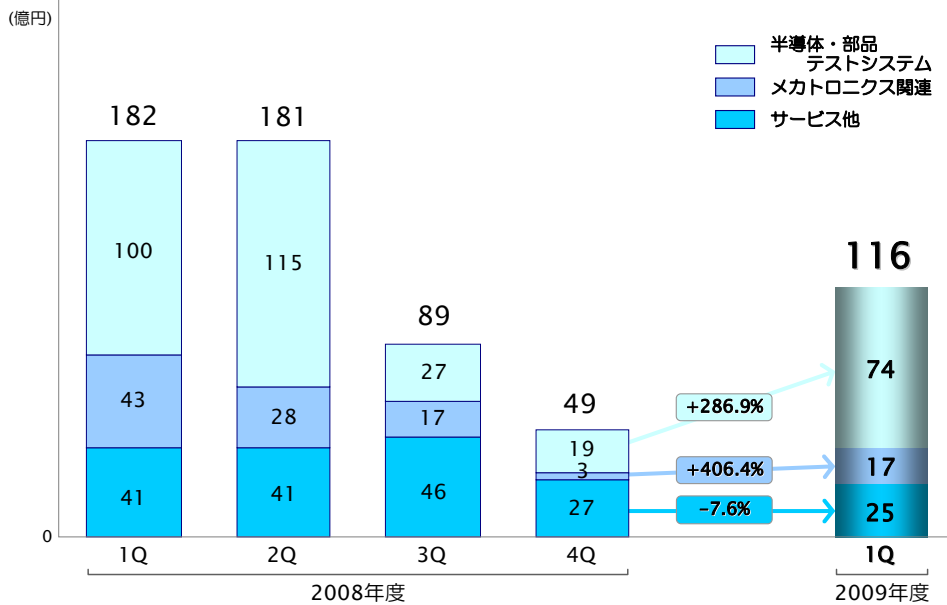
○ 昨年度の第1四半期より、
売上高が受注高を上回る傾向で推移。

当第1四半期の半導体市場では、
半導体の在庫調整の進展や、
増産による設備稼働率上昇など、
前期と比較して景気好転の兆しが見られた。

この結果、当第1四半期の受注高は、
前期比で大きく増加し、
5四半期ぶりに受注高が売上高を上回った。

受注高 事業セグメント別

ADVANTEST.



4

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2009/7/29

○ 事業セグメント別の受注高

○ 半導体・部品テストシステム 前期比約3.9倍の74億円

- ・メモリ・テストでは、
今後パソコンへの搭載が増えると期待されている
DDR3の量産向けとして「T5503」の受注が増加。
- ・非メモリ・テストでは、
主にパソコンに搭載される新しいMPU向けに、
「T2000」のモジュールの受注が増加。

○ メカトロニクス関連 前期比約5.1倍の17億円

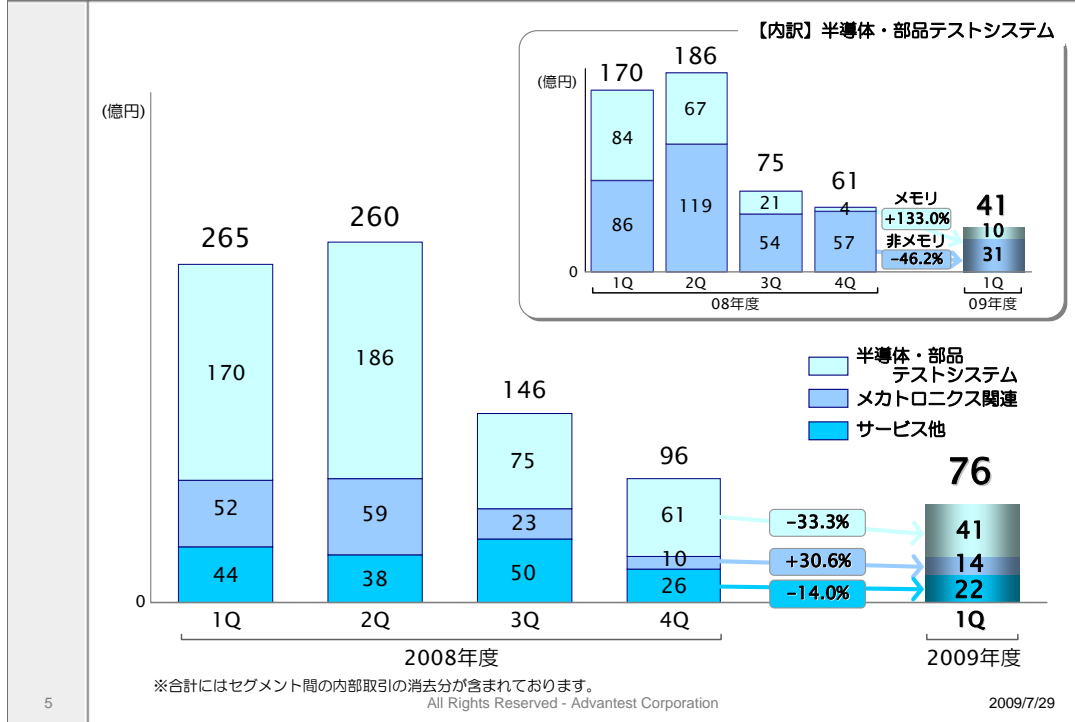
半導体メーカーにおけるテスト稼働率の上昇に伴い、
デバイス・インタフェースの受注が増加

○ サービス他 前期比横ばいの25億円

半導体メーカーの稼働率は上昇したものの、
保守・サービスの需要が増加するほどのレベルには達しなかった。

売上高 事業セグメント別

ADVANTEST.



○ 事業セグメント別の売上高

○ 半導体・部品テストシステム 前期比33%減の41億円

・メモリ・テスト

前期比2.3倍の10億円

一部の半導体メーカーで、DDR3量産への動きが出てきた。

・非メモリ・テストでは、

前期比46%減の31億円

今後の新しいMPUの量産に向けた、

「T2000」の受注は堅調だったものの出荷には至らず、

また、デジタル家電や自動車の需要が、

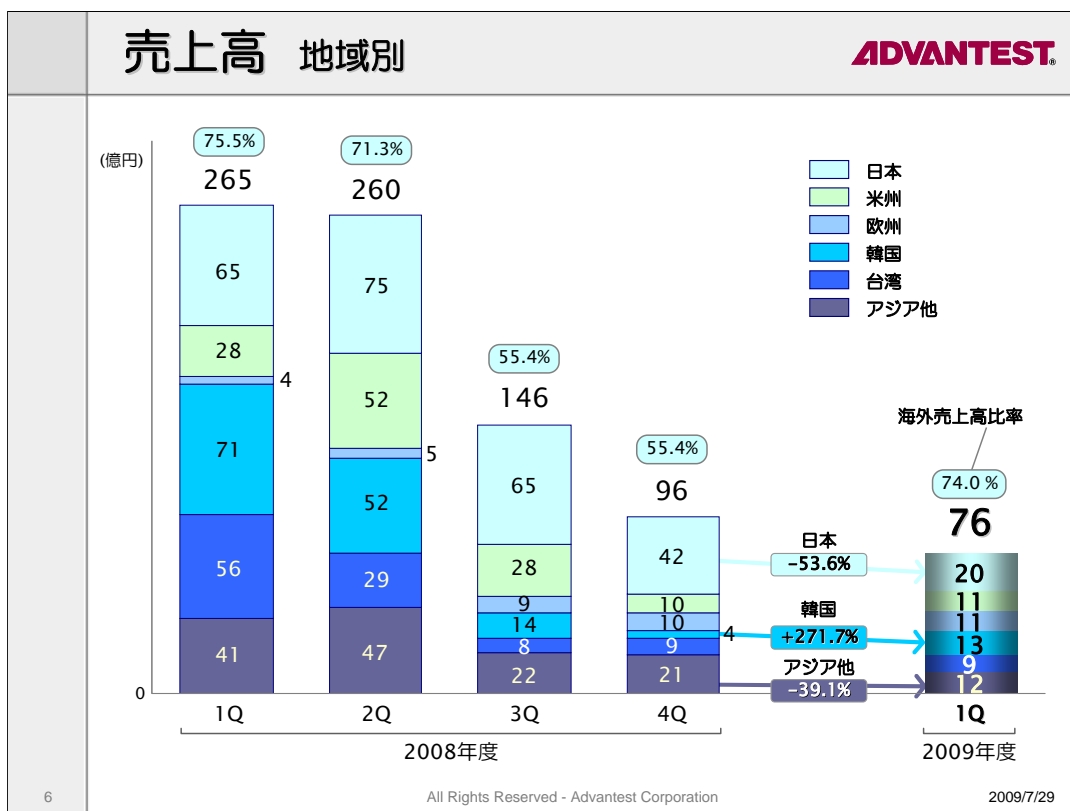
引き続き低調に推移した。

○ メカトロニクス関連

前期比31%増の14億円、

○ サービス他

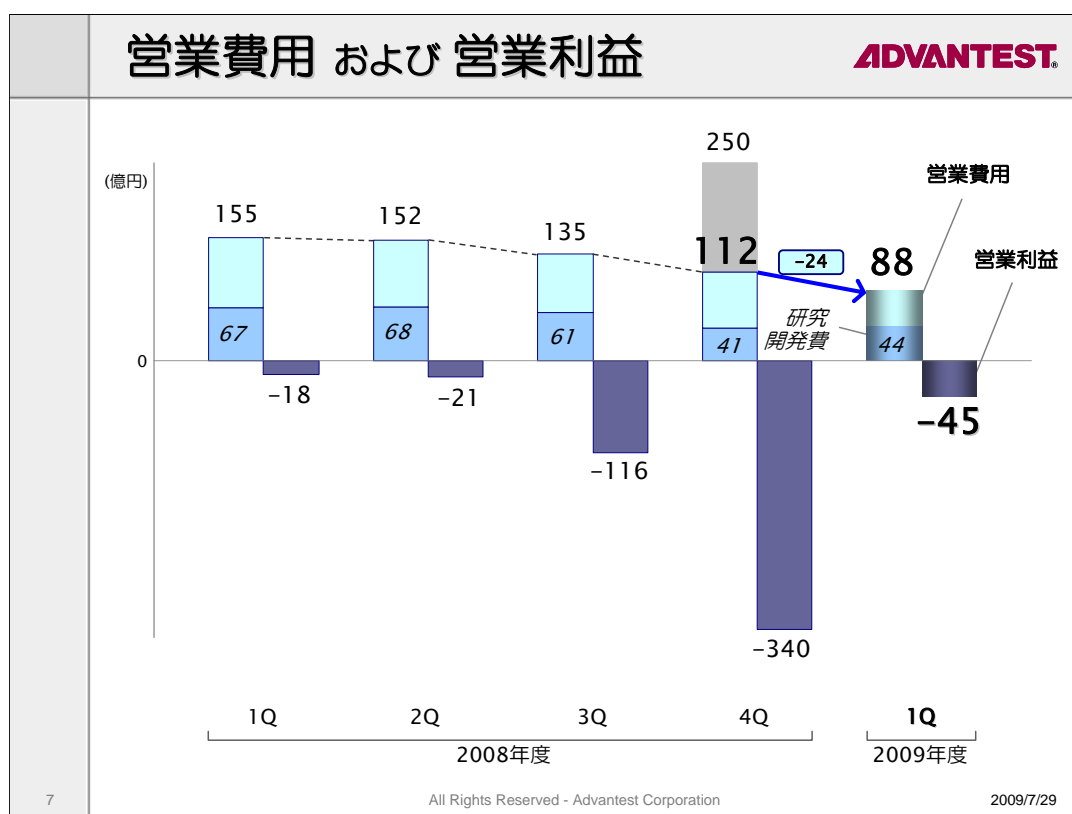
前期比14%減の22億円。



○ 地域別の売上高

○ DDR3の量産に向けたテスト需要の増加などにより、一部、韓国での売上高の伸長が見られたが、その他の地域では、依然として低調に推移。

特に、日本においては、デジタル家電や自動車の需要が低迷し、新規のテストへの投資回復は見られなかった。



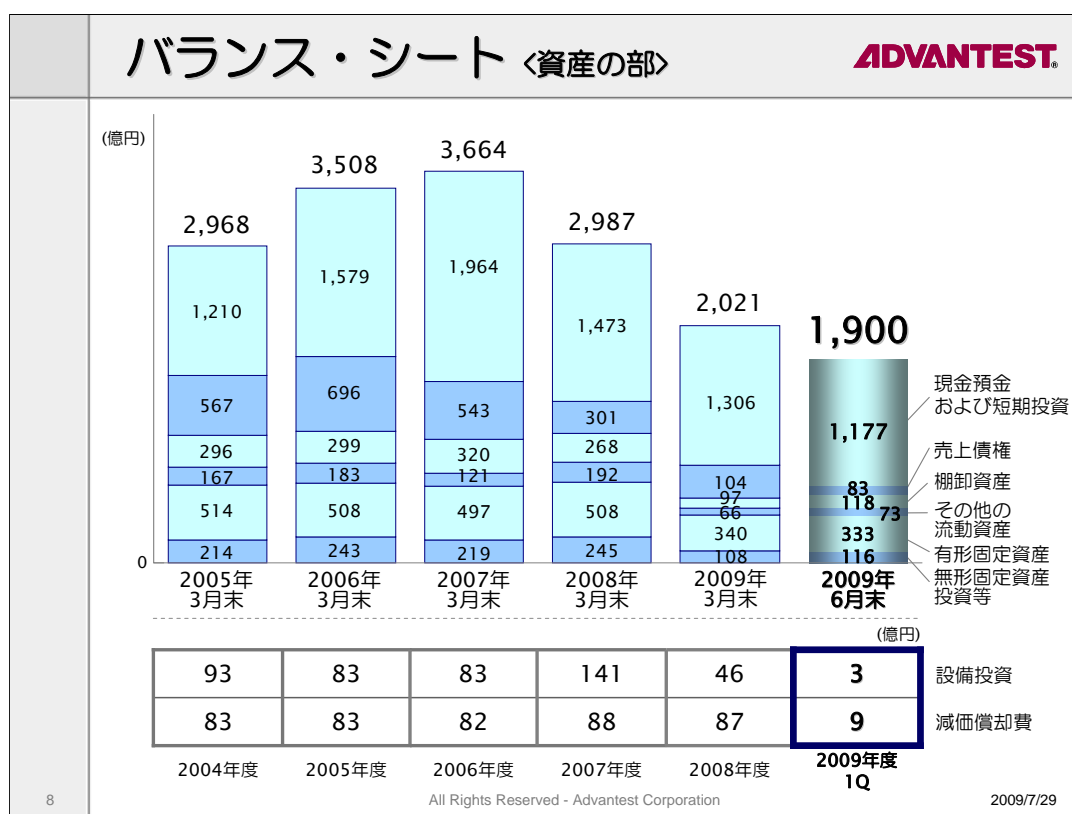
○ 営業費用および営業利益

○ 当第1四半期の営業費用 88億円

- ・ 前期比で24億円、約2割減少
(前第4四半期の営業費用250億円には、構造改革費用138億円が含まれており、これを控除した実質ベースの営業費用112億円と比較)
- ・ 昨年度の構造改革や、その後の継続的な経費削減など、収益性の改善に努めてきた結果。

○ 営業利益は、45億円のマイナス

- ・ 当第1四半期の売上が低水準にとどまったため。



○ 2009年6月末現在のバランス・シート

○ 資産の部

・ 総資産

2009年3月末比 121億円減の 1,900億円

短期投資を含めた手許資金は、129億円減少し、
当四半期末で、1,177億円に。

減少の主な理由：

- ・ 当期純損失38億円
- ・ 昨年度の構造改革に伴う支出

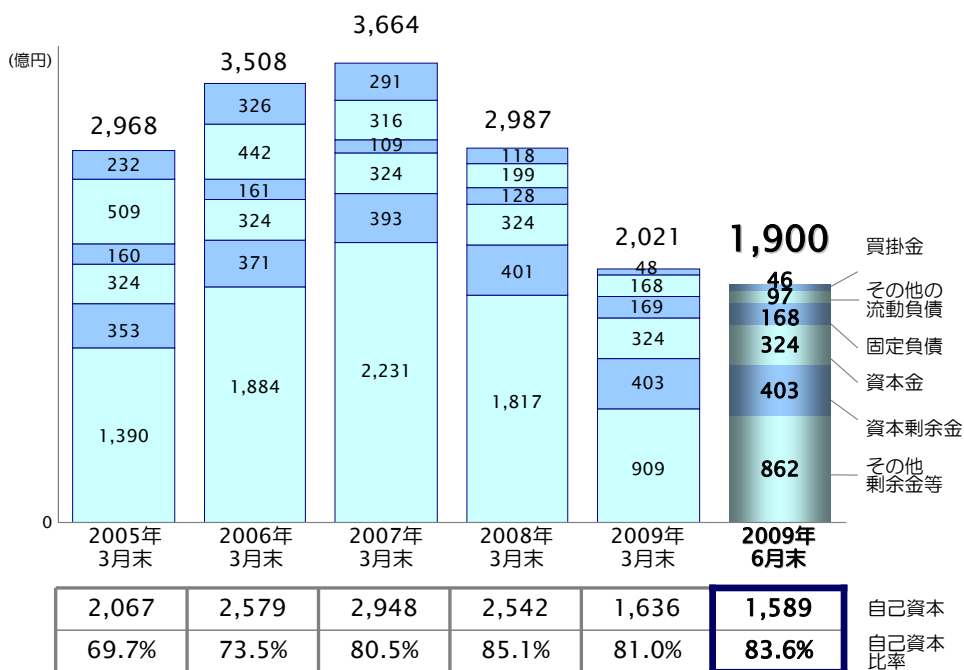
○ 当第1四半期の設備投資 3億円

○ 当第1四半期の減価償却費

昨年度に固定資産の減損を行った影響で、
9億円となった。

バランス・シート <負債・資本の部>

ADVANTEST.



○ 負債・資本の部

- ・ 2009年6月末時点の自己資本

1,589億円

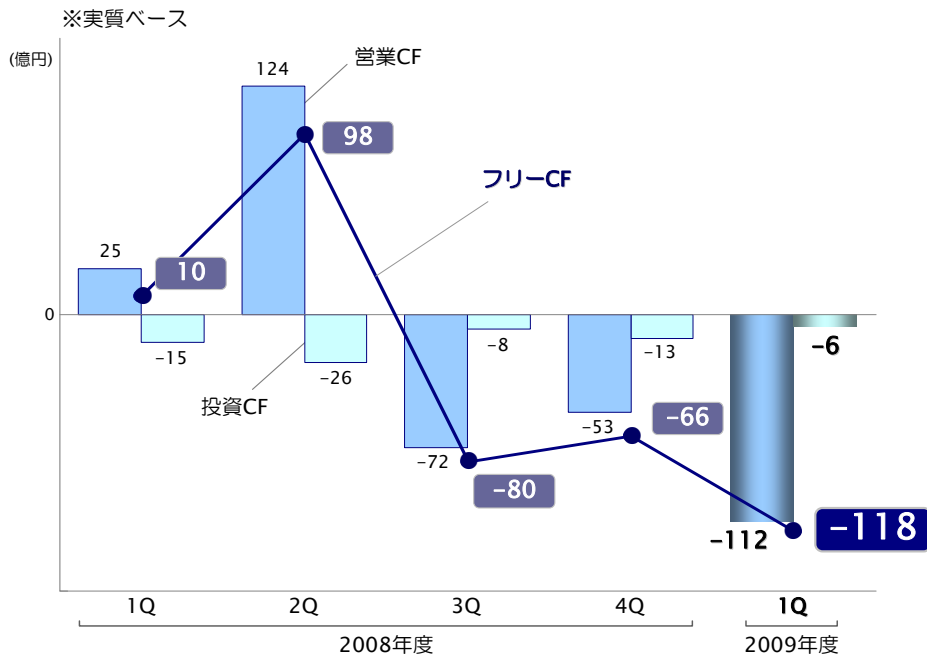
「その他剰余金」の減少により、前期末から47億円減少

- ・ 自己資本比率

83.6%

フリー・キャッシュ・フロー

ADVANTEST.



10

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2009/7/29

○ 当第1四半期のキャッシュ・フロー

- ・ 営業キャッシュ・フロー
112億円の支出
- ・ 投資キャッシュ・フロー
短期投資を除き、6億円の支出
- ・ 当第1四半期の実質のフリー・キャッシュ・フロー
118億円のマイナス

2009年度第2四半期 業績予想について

2Qの見通しに関する外部環境		ADVANTEST.
	FY2009/2Q	3Q以降
ポジティブ	<ul style="list-style-type: none"> ○ DDR2からDDR3へのシフト加速 →「T5503」 →「M6242」 ○ 次世代MPUの量産開始 OSAT※を中心とした新規顧客開拓 →「T2000」 →「各種モジュール群」 <small>※OSAT: Outsourced Semiconductor Assembly and Test</small>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新OSの登場 → DDR3搭載PCの普及 ○ ブロードバンド化 対応の携帯端末登場 → 通信用デバイスなどの需要増加 <p>しかし、依然 不透明感が強い</p>
ネガティブ	<ul style="list-style-type: none"> × 半導体の主要アプリケーション (デジタル家電、自動車など) の世界的な需要低迷 	<ul style="list-style-type: none"> × 最終製品需要低迷の長期化 → 半導体メーカー 設備投資抑制継続

12

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2009/7/29

○ 第2四半期以降の事業環境

○ ポジティブな面

・メモリ・テスト分野

第2四半期も引き続き、
DDR3の量産に向けたテストの需要増加が見込まれる

第1四半期は韓国を中心とした引き合いが活発化。
第2四半期以降は、台湾など、
その他地域のメモリ半導体メーカーにおける、
量産向けテストの需要を見込む。

・非メモリ・テスト分野

MPUメーカーやOSATを中心に、
新MPUならびにその周辺デバイスに向けた、
需要の回復を見込む。

○ ネガティブな面

- ・新興国を中心としたデジタル家電特需の一服、
世界的な個人消費低迷など、
景気の先行き不安から、
半導体メーカーが設備投資をさらに抑制する懸念。

第2四半期 業績予想

ADVANTEST.

(単位: 億円)

	2009年度				
	1Q 実績	2Q 予想	前期比 (%)	2Q累計 予想	前年同期比 (%)
受注高	116	100	-14.1	216	-40.4
売上高	76	100	+31.4	176	-66.5
営業利益	-45	-37	-	-82	-
税引前純利益	-37	-32	-	-69	-
当期純利益	-38	-33	-	-71	-
受注残	98	98	-		

13

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2009/7/29

○ 前ページの事業環境を踏まえた、 第2四半期の業績予想

- ・ 受注高 前期比 14%減の 100億円、
- ・ 売上高 前期比 31%増の 100億円、
- ・ 営業利益 37億円の損失、
- ・ 税引前純利益 32億円の損失、
- ・ 当期純利益 33億円の損失、

○ 2009年度通期の業績予想

第3四半期以降の半導体テスタへの投資見通しに、不透明感が強く、今回は開示していない。開示が可能となった時点で速やかに開示する。

ご注意

- ◆ 当社は米国会計基準を採用しております。
- ◆ 将来の見通しに関する記述について
本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているもの又は暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されています。